

令和2年度 第3回湯沢市行財政改革推進計画策定委員会 議事録

1. 日 時 令和3年1月19日(火) 9:55~10:50
2. 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室44
3. 出席委員 【出席6名】
(敬称略) 佐貫友洋(委員長)、高嶋江美子(副委員長)、京野楽弥子、高橋みどり、藤原敦志、小松和利
4. 議 事 (1) 答申(案)について

■議事での発言要旨

	(1) 答申(案)について
委員長	それでは、答申(案)について、御意見や御質問を伺います。
〇〇委員	歳入の確保として、金融知識がある地方銀行の支援で資産運用を取り入れてもいいのでは。
市事務局	市で保有する基金については大口定期のように金融機関に預けているが、安全かつ最も有利な方法で運用しなければならない規定があるので、リスクを伴う運用は行ってはいない。
〇〇委員	国の年金運用のように、リスクを取っていくことも必要でないか。 金融に対する知識を市民に広げる契機にもなる。
市事務局	前回の行財政改革大綱と集中改革プランの中で「資金運用益の拡大」として取り組んだ実績は少しあるが、リスクを運用益に求めるか、他の施策でやった方が良いのか、安全性の担保についても国県の状況を見ながら考えていきたい。 一般の方を対象とした金融知識については、生涯学習の講座のメニューの在り方も含め検討したい。
〇〇委員	パブリックコメントと主な意見がまとまったものが答申として提出されるのか。
〇〇委員	答申として提出されるのは、鑑文書と附帯意見書の2枚である。
市事務局	素案の中身についても、若干変わってくるが、内容として大きく変わるものはなかったもので、文言や資料を差し込んだものを成案とし、後日皆様にお配りすることになる。
〇〇委員	素案に委員から出された意見を反映させ修正していくと思うが、集約した意見を答申の附帯意見としてまとめていく際、盛り込みきれないものも修正になる場合もあるのか。

市事務局	基本的に委員の意見を反映させていくが、大きく変えることはない。皆さんからの意見をこの行革に反映させていくのか、他の計画に関連するものかを判断することになるが、附帯意見にある意見は行革に関連するであろうと思われる内容を抽出したものとなる。様々な意見があったが、庁内でも情報共有を図るので、この場限りの話ではないことを了解いただきたい。
〇〇委員	リスクマネジメントの項目で、職員の意識改革が一番難しいと考えている。コンプライアンス意識の醸成に関連し意見に盛り込めないか。人員削減によって職員の質の向上が言われているが、組織的にモチベーションを向上させて質の向上を図ることや、意識を改善させることはそれぞれ意識の差があり難しい。今後色々な意見に対応していけるような職員を育成する意味で意識改革の部分も入れてほしい。
市事務局	いただいた意見は附帯意見に追加したい。
〇〇委員	例えば市公式フェイスブックのフォロワー数と言っているKPIの数値は変わるのか。パブリックコメントにも書かれているが、附帯意見にはない。
市事務局	担当である協働事業推進課で、どの程度把握できるのか内部で話をしないと分からない部分があるが、計画そのものを変えても大丈夫かは協議が必要。KPIで設定されている部分はそのまま、新たに把握する分は付け加える形でもいい。計画そのものを直すのか、実際にやる時にそういったものを把握しながら公表していくのかを担当課と協議したい。
市事務局	フェイスブックは従来からの手法であるが、今はフェイスブックにあげた情報を転載するのがツイッターで、フェイスブックを基軸にしながら他に情報を展開するような役割となっている。ツイッターなどの他の指数を今この経営戦略に載せるのは難しいと思うが、来年度、KPIの引用元である総合振興計画の基本計画を見直す作業が始まるので、今盛り込まなくても、KPIの数値を見直す機会はある。協働事業推進課でKPIの進行管理と一緒に市全体の広報やPRの在り方については一体的に検討していく必要がある。
委員長	ほかに御質問や御意見ありませんでしょうか。なければ、答申案に先ほどのリスクマネジメントに1項目を加えたものを答申として上げさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員長	事務局には今回答申に載せきれなかった件についても、市の政策に反映いただければと思いますのでお願いします。
〇〇委員	経営戦略は来年度から6年間実施されていくことになるが、進行管理は誰がどのようにやっていくのか。
市事務局	計画そのものには、色々な部署が関わっているが、企画課ですべてを管理し、毎年の進捗を確認し達成状況を検証し報告することになる。
〇〇委員	この経営戦略の素案がまとまった時期はいつか。

市事務局	第1回目の策定委員会の直前に、庁内合意を得て皆さんにお示ししている。
〇〇委員	今回初めて参加させてもらったが、このような会議だけでなく、素案が出来上がった段階で座談会のような議論が挟めれば、附帯意見になる事が実行しやすいのではないかと感じる。実行に移すまでの期間があまりにタイトで厳しすぎる。座談会があれば、様々な意見を盛り込むことができるし、内容についても議論ができるので実行に移しやすいのではと思う。
市事務局	経営戦略はどちらかというと内部向けの計画なので、この方式で進めてきたが、公共施設再編計画や来年度予定している総合振興計画の見直しについては、座談会を含め色々な意見を聞く機会を設定する予定としている。ちなみに公共施設再編計画は3年間かけて策定した計画である。
〇〇委員	市役所は市のあらゆるデータの数字が集まってくると思うが、そういったデータを分析したりする部署はあるのか。
市事務局	数値を分析するための部署はない。目的のため横断的なプロジェクト等がつくられるような場合はあるかもしれないが、常に取り扱っている部署はない。
〇〇委員	集まったデータを分析して横のラインで連携することによって、より良い組織になるのでは。
市事務局	シンクタンク的な組織の体制をとっている自治体もある。経営戦略の中にある「政策課題研究制度」が近い考え方。新潟県燕市では首長のトップダウンで、物事の本質をプロフェッショナルな視点で分析できるよう、職員の勉強会を定期的に行っている。
〇〇委員	縦割りの弊害は皆さん感じていて、横にシフトするようになってきている。ひとつの事を深く考えることも必要だが、広く浅く横からの視点への意識がまだ足りないと感じる。この機会に、横目線で見ることが色々な事を気付かせてくれることを特に意識して進めてほしい。それが職員の意識改革や研修にもなるので是非考えてほしい。
市事務局	可能な限り自分達の仕事に没頭するのではなく、周りの状況を見ながら関連する部署と連携を取り進めるよう、常日頃市長からも話をされている。
〇〇委員	この計画は議会で承認されて動き出すことになると思うが、4月に市長が代わった場合、根本からやり直したりするのか。
市事務局	この計画は、段階を踏んで、市民の意見を聞きながら内部で積み上げて作り上げたもの。市長が代わってもやり直すことはない。議会の承認は必要ないが、市民にも関係することなので議会に報告するルールとなっているもの。
〇〇委員	自分の経験でも自分の意識を変えることは難しい。幹部になればなるほど難しく、問題を起こすのは幹部が多い。情報共有についても、自分で問題意識を持っていないと他のことはなかなか考えないもの。横の繋がりを広げて情報を得ることにより、全体の姿が見えてくるので参考にしてほしい。

〇〇委員	この計画が絵に描いた餅にならないように、皆さんで努力して一歩でも近づけるようにしないと湯沢市自体も大変だろうと思う。皆さんで是非実行に移れるよう頑張ってください。
企画課長	3回に渡る行財政改革の策定委員会、大変お疲れ様でした。 他の計画とは異なり、行革の計画は分かりづらく、活発な会議になるか不安でしたが、予想に反して色々な御意見や御提案を多数いただき、大変有意義な会議になったと思っています。今後もこの経営戦略だけでなく、色々な計画や事業がありますので、様々な機会を通じて皆様の御協力をいただければ幸いです。本日はどうもありがとうございました。